

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2073400661		
法人名	医療法人 藤美会		
事業所名	グループホーム すめらぎ		
所在地	長野県長野市中条住良木9060番地		
自己評価作成日	平成23年7月17日	評価結果市町村受理日	平成24年4月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成23年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成22年1月に中条村から長野市に合併され、長野市のグループホームとして広範囲にご利用いただけるようになった。その分中条地区の方により身近に感じていただけるよう、運営推進会議を通して地域の方と意見交換し、入居だけでなく地域の福祉の場として広く活用していただけるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中条村から長野市に合併し、広範囲からの入居が可能となったが、地域密着型のあり方との整合性の難しさを感じられた。「地域に開かれた運営を目指す」という理念の下、地域と共に歩む事業所作りに取り組んでいるが、事業所の立地条件、利用者の重度化もあり、困難も多い。これまで行ってきた介護教室の「えんがわサロン」も送迎等の難しさがあり中断しているが、地域からの理解を得る良き取り組みであるので再開が望まれる。管理者と職員、職員相互のコミュニケーションは良好であり、身体拘束・排泄や尊厳の保持に関して、ぶれることのない基本姿勢がある。又、介護計画の課題分析から評価まで整備された様式に基づいて丁寧な計画作成・月1度の実施状況の把握・評価が行われ、利用者の「今」必要なサービスが提供されている。無断外出・転倒・重度化対応など課題もあるが、併設事業所、協力医療機関、行政などの関係機関の協力を得ながら利用者にとって、事業所が「安心して暮らせる場所」となるよう前向きに取り組んでいる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(菜の花)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(さくら)

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>地域生活の継続支援と事業所と地域との関係を強化する理念をつくり、地域密着型サービスの意義を職員と共有している。</p>	<p>事業所独自の理念を持ち、ミーティングや事務所の壁に理念を掲げて職員への共有化を図っている。理念を土台とした職員の行動規範やスローガンもあり、利用者へのサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域のイベントに参加したり、施設のイベントに地域の方が参加していただけるよう交流している。</p>	<p>地域行事への参加、地域の介護の会への講師派遣、事業所行事への地域ボランティアの招待、米や野菜の地域からの購入など地域とのつきあいを大切にしているが、地域の方と日常的に気軽に交流するまでには至っていない。</p>	<p>事業所の立地条件、利用者の重度化も重なり日常的なつきあいは困難も多いが、関係機関の協力を得ながら、例えば、子供たち(保育園・小、中学生)との交流などを土台にして地域に溶け込み、地域と共に歩む取り組みを期待したい。</p>
3		<p>事業所の方を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症の方を支える場所として、広く地域の方に開放し、介護教室のお手伝いも行っている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>市担当者、区長、民生委員、家族代表が交代で参加いただき、より身近な意見を活かせるよう話し合いをもっている。</p>	<p>行政・地域・家族の参加の下、年6回会議を開催し、事業所の現況、評価、事故状況、事業所の課題など透明性のある議題を提起している。委員からの意見も活発であり、双方向的な会議となっている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>包括の方や地域の他の事業所の方とも連絡を密に取り、協力関係を築いている。</p>	<p>22年1月から長野市と合併し、行政との新たな連携を築くこととなったが、運営推進会議や電話連絡などを通じて良好な協力関係となっている。中条の支所にある包括支援センターとはこれまでと同様の繋がりを保っているため、密な情報等の共有化が図られている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定期準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関はすべての入所者の安全を考慮し施錠しているが、申し出があれば付き添いなどして外気浴などもしていただいている。拘束のないケアに取り組んでいる。	抑圧感のない暮らしの支援、拘束しない介護についての職員の意識の共有化は十分に図られている。無断外出してしまう利用者も居るため、玄関の施錠をしているが利用者が希望すれば外出に応じている。職員の見守りや連携プレーを適切に行ったり時間帯や職員配置の工夫をして玄関の施錠をしないケアへの取り組みを模索している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、ミーティング時に具体的なケースについて話し合い、お互いに注意しあっている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などに参加し、制度の理解を深め、活用できるよう内部ミーティング時に話し合いを持っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前訪問、ホーム見学時、契約時等 十分な話し合いの中で理解・納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族と話し合う時間を設け、意見等伺っている。また、苦情受付などの説明も充分行っている。	行事や事業所での様子を伝える「うめだより」を毎月発行し、面会時などを活用して家族等の意見を聞くよう取り組んでいる。意見箱は設けているが要望等はあまりない。利用者の健康状態や思い、職員からのコメントなどを毎月伝える機会を設けることも検討している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定時ではないが必要に応じて職員に意見や提案を聞き、運営に反映させている。	各ユニットのリーダーに意見などを提案できる仕組みがあり、事業所の代表者・管理者・各ユニットのリーダーによる職員の評価も行われ、適切な労働環境となるよう取り組んでいる。管理者は地域密着型特有の悩み事の相談に応じたり、職員の諸事情に対応した勤務表作りをするなど、良好なコミュニケーションがとれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与や賞与について、勤務状況により評価している。また、職場環境・条件などの整備改善に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からの研修案内に対し、必要なものについては積極的に参加させている。また、内部研修としてミーティング時に研修時間を設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野圏域グループホーム会に参加しており、同業者との交流の場所を増やしネットワークづくりや勉強会の機会を設けている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、家族、行政としっかりコミュニケーションをとり、情報交換し安心していただけるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問時やグループホーム見学時などに、しっかりアセスメントを取り、不安、要望など受け止め安心していただけるよう関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	行政や在宅ケアマネと情報交換を密に行い、必要なサービスを検討し、本人や家族が納得できるよう対処している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意なことを把握しておき、教えてもらったり手伝ってもらったりして、互いの関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りを毎月発行し、日々の楽しい生活、笑顔を見ていただいている。また、面会時にはお茶など一緒に楽しんでいただいている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の人や友人が来やすいようにしたり、お茶などを一緒に楽しんでいただいている。	利用者の重度化や、知人や友人が遠方にあることもあり、訪れる方は少ない。地域の敬老祭に行ったり、家族の付き添いを得て、墓参りをする方も居る。手紙は自分で書ける方も居るが、希望により代筆の支援もしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の席を中の良い人同士にしたり、孤立しがちな入居者には職員がフォローし寂しくないように支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	常に行政、外部事業所などと連絡を取り合い、相談・支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からしっかりアセスメントしており、希望、意向の把握に努めている。また、日々の会話のなかからも把握に努めている。	利用者の基本情報が十分に整備されているので、利用者の思いや願い、得意分野(おぶっこ作り、縫物)などは把握できている。日々の会話から得たものを含めて、理念に副った「安心して暮らせる場所作り」に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをしっかり取ることにより、生活歴や馴染みの暮らし方、環境などこれまでの経過など把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を見ながら、現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と充分話し合い、よりご本人の想いに即した生活を送れるよう作成している。また、随時見直しをかけた現状に即したものにしている。	課題分析から評価まで様式・記録を含めてよく整備されている。介護計画については毎月、実施状況の把握・評価を行い、現状に即した計画となるよう対応している。計画作成担当者と利用者の担当が中心となって計画を作成している。施設サービス計画書(2)の援助内容の担当者・頻度・期間のあり方について、さらなる工夫を施そうと検討している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング表にケアの実践、結果、心身の状態の変化等を記入して、見直しが必要な時に活かしている。個別に日常の状況(バイタル・排便・入浴等)を具体的に記録している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じ対応困難な時は、受診や市役所等への支援を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営会議を通し近隣の情報を入手し、地域の人と交流を図れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ほとんどが主治医でもある中条診療所の医師に任せており、月4回の往診がある。緊急時には主治医と連絡を取り、近隣の病院にもすぐ行ける体制をとっている。</p>	<p>利用者・家族の希望によりほとんどの方が事業所の協力医がかかりつけ医となっており、1人月1回の往診を受けている。歯科も近くにあり、緊急時や入院には事業所の協力医療機関を利用でき、併設事業所の看護師とは24時間の連携が可能であるので、医療面での安心を得ている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>老健の看護師と24時間連絡が取れている。また、往診時や電話などで主治医・看護師に相談でき、適切に受診できるよう努めている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医療機関と常に情報交換を行い、早期退院できるよう努めている。また、関係づくりも良好である。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合の方針を個々の家族と話し合い、同意を頂いている。また、状況が変化した時には、再度家族、医師と話し合いより良い方向を話し合う体制を整えている。</p>	<p>重度化や終末期の対応は、医療面での協力を得ることが出来る体制となっているので、家族等の希望に副った対応が出来て家族等からの同意も得ている。家族の気持ちとしては、いざ終末期となると揺れ動くもので、精神的なケアの必要性が多くなるが、都度の話し合いも充分行われている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>ミーティング時に研修をもうけたり、看護師とともに定期的に訓練をしている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>老健合同の避難訓練を定期的に行い、避難経路図を各ユニットに掲示している。運営会議にて、地域の人々の協力が得られるよう話し合いをしている。</p>	<p>昼・夜想定で併設事業所と合同で通報・避難誘導・消火訓練を年2回行っている。22年度に地域防災協定を結び、地域や消防団の協力を得る体制が整った。避難経路図・スプリンクラーの設置・自動通報装置などの防災設備は整い、併設事業所との相互協力・防災警備会社との契約もあり災害への備えは出来ている。</p>	<p>自動通報装置やスプリンクラー等の設備の理解(使用方法・設備の機能など)が不十分である面が見受けられるので、消防署などの協力を得て、通報・避難誘導・消火に関する学習会などの機会を設けることを期待したい。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりにあった声かけや対応を行っている。ミーティング時に守秘義務の徹底を図っている。	職員の行動規範である「4つの約束」に利用者への尊厳保持やプライバシーへの配慮が明示され、日々の介護の中で実践するよう取り組んでいる。個人の書類は鍵の掛かる保管庫に収納され、守秘義務の徹底のため職員から誓約書を取っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に個々に対応しており、訴えにはなるべく添えるよう話を聞いている。飲み物などは自己決定していただいている。生活においても個々に自由に過ごしていただいている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状況を見守りながら、その人に合わせた声かけや対応を行っている。その人らしく生活できるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備時、本人と一緒に好みの衣類を選んでいる。また、希望時出張美容室にでかけ、身だしなみを整えている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものなどの希望を聞き、対応している。旬の取れたての野菜を使った季節感のある食事を取り入れている。また、下準備など一緒にできるものは手伝っていただいている。	調理は利用者の出来る範囲で下準備などを中心に職員と一緒にいき、食事は会話を楽しみながら職員とテーブルを共にして、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。地元産の食材、畑で採れた物、季節感のある物を中心に併設事業所の献立をアレンジして職員が作成し、これまでと同じように家庭で味わえる食事作りを心掛けている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	老健の管理栄養士の作成した献立を参考にし、調理しており、栄養バランスも考慮している。一人ひとりの状態にあった分量や嚥下状態にあったものなど注意をはらって対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人に応じた口腔ケアを行っている。治療など必要ある場合、すぐ対応できる体制をとっている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して行っている。排泄の失敗があっても、試行錯誤しながら声かけや誘導により自立支援につなげている。	トイレを使用しての排泄を介護の基本とし、排泄に関しての職員の意識の共有化が出来ている。尿取りパット・リハビリパンツ・夜間のポータブルトイレなどを活用して、排泄パターンに沿ったトイレ誘導や声掛けを行い、排泄の自立に向けた取り組みをしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防のため、繊維質の野菜を多くとり、水分摂取も促している。また、皆で身体を動かすよう体操をしている。個々に排便チェックしておりコントロールしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴担当者が一人ひとりの入浴スタイルに合わせてゆっくり行い、楽しめるように支援している。日替わりで薬草風呂を楽しんでいただいている。	入浴は1日に全員、午前中、1人週3回行っている。脱衣場はゆったりとしたスペースとなっており、浴槽が2つあるので自立者・介助者の同時利用による効率化が可能であり、明るく、清潔感があった。重度化している方については、現在は事業所の浴室利用で対応しているが併設事業所での入浴も視野に入れている。清潔感の維持と入浴の楽しみを得られるよう努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できる環境の提供と、昼夜逆転傾向の入所者に対して、生活リズムを皆で把握し、改善できるよう対応している。また、医師にも相談等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬包に記名し、朝・昼・夕専用の箱に入れ、入所者確認しながら誤薬には注意をはらっている。薬の詳細はファイルしており、目的・副作用などは理解している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おぶっこ作りや縫い物、貼り絵など一人ひとりにあった生活活動を行い、楽しみや気分転換を図っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日光浴や外気浴を兼ね玄関先でお茶を楽しんだりしている。また、個々に散歩などしている。お花見、七夕、紅葉狩り等外出計画を支援している。	重度化もあり、利用者からの要望も少なく、事業所周辺の散歩外出の機会多くない。気分転換や五感の刺激となる玄関先での外気浴は行っている。花見・紅葉狩りなどの外食を含めた計画的な外出は行っている。	日常的な散歩や散策は人員配置からネックもあるので、関係機関の協力を得てボランティアを取り入れて戸外に出る機会を多く持つことを期待したい。ボランティア活動の受け入れは、地域との繋がりを良好にしたり、事業所理解に繋がるきっかけともなるので積極的な働きかけが望まれる。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	ご家族の了解の下に金銭をお持ちの方がおり、使い道等支援している。また、紛失等トラブルにならないよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は常時かけられるようになっており、相手呼び出すまで支援している。手紙も希望時代筆等援助している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアにオープンキッチン、食堂、ホールがあり、食事の準備の音や匂いを感じられ生活感がある。トイレ、浴槽は広く、往來がスムーズにできる。天窓を利用し、爽やかな空気を取り入れ心地良く過ごせるようにしている。	テレビやソファのある寛ぎの空間となっているホールを取り囲むように居室があり、食堂・台所など何処に居ても全体が見渡せる形になり、安全面での配慮が窺えた。3か所の天窓からの採光も良く、エアコンによる冷暖房対応、年間の清掃計画や日々の清掃による清潔感の保持と居心地よく過ごせる空間作りに努めている。事業所全体の整理整頓や飾り物等の季節感への配慮が必要と思われる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの中央には、大型TV、ソファがあり、自然と集まり談話できるようになっており、思い思いに過ごしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族の思いを大切にしている。畳を敷いたり、タンス、TV等持ってきてもらい、本人らしく居心地良く過ごせるよう配慮している。	利用者と家族で思い思いの部屋作りをしてあり、テレビ、タンス、絵画、写真などが配置されていた。採光も良く、明るく、シーツ交換は週1回行い、居室の清掃も行き届き、清潔感があり居心地よく過ごせる空間になっていた。括りつけの収納スペースがあり、居室内はよく整理され、すっきりとしたベッド周りとなっていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を把握しており、声かけや見守りを多くして自立支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>地域生活の継続支援と事業所と地域との関係を強化する理念をつくり、地域密着型サービスの意義を職員と共有している。</p>	<p>事業所独自の理念を持ち、ミーティングや事務所の壁に理念を掲げて職員への共有化を図っている。理念を土台とした職員の行動規範やスローガンもあり、利用者へのサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域のイベントに参加したり、施設のイベントに地域の方が参加していただけるよう交流している。</p>	<p>地域行事への参加、地域の介護の会への講師派遣、事業所行事への地域ボランティアの招待、米や野菜の地域からの購入など地域とのつきあいを大切にしているが、地域の方と日常的に気軽に交流するまでには至っていない。</p>	<p>事業所の立地条件、利用者の重度化も重なり日常的なつきあいは困難も多いが、関係機関の協力を得ながら、例えば、子供たち(保育園・小、中学生)との交流などを土台にして地域に溶け込み、地域と共に歩む取り組みを期待したい。</p>
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症の方を支える場所として、広く地域の方へ開放し、介護教室のお手伝いも行っている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>市担当者、区長、民生委員、家族代表が交代で参加いただき、より身近な意見を活かせるよう話し合いをもっている。</p>	<p>行政・地域・家族の参加の下、年6回会議を開催し、事業所の現況、評価、事故状況、事業所の課題など透明性のある議題を提起している。委員からの意見も活発であり、双方向的な会議となっている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>包括の方や地域の他の事業所の方とも連絡を密に取り、協力関係を築いている。</p>	<p>22年1月から長野市と合併し、行政との新たな連携を築くこととなったが、運営推進会議や電話連絡などを通じて良好な協力関係となっている。中奈の支所にある包括支援センターとはこれまでと同様の繋がりを保っているため、密な情報等の共有化が図られている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関はすべての入所者の安全を考慮し施錠しているが、申し出あれば付き添いなどして外気浴などもしていただいている。拘束のないケアに取り組んでいる。</p>	<p>抑圧感のない暮らしの支援、拘束しない介護についての職員の意識の共有化は十分に図られている。無断外出してしまう利用者も居るため、玄関の施錠をしているが利用者が希望すれば外出に応じている。職員の見守りや連携プレーを適切に行ったり時間帯や職員配置の工夫をして玄関の施錠をしないケアへの取り組みを模索している。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加したり、ミーティング時に具体的なケースについて話し合い、お互いに注意しあっている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修などに参加し、制度の理解を深め、活用できるよう内部ミーティング時に話し合いを持っている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>事前訪問、ホーム見学時、契約時等、十分な話し合いの中で理解・納得を図っている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時にご家族と話し合う時間を設け、意見等伺っている。また、苦情受付などの説明も充分行っている。</p>	<p>行事や事業所での様子を伝える「うめだより」を毎月発行し、面会時などを活用して家族等の意見を聞くよう取り組んでいる。意見箱は設けているが要望等はあまりない。利用者の健康状態や思い、職員からのコメントなどを毎月伝える機会を設けることも検討している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定時ではないが必要に応じて職員に意見や提案を聞き、運営に反映させている。	各ユニットのリーダーに意見などを提案できる仕組みがあり、事業所の代表者・管理者・各ユニットのリーダーによる職員の評価も行われ、適切な労働環境となるよう取り組んでいる。管理者は地域密着型特有の悩み事の相談に応じたり、職員の諸事情に対応した勤務表作りをするなど、良好なコミュニケーションがとれている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与や賞与について、勤務状況により評価している。また、職場環境・条件などの整備改善に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からの研修案内に対し、必要なものについては積極的に参加させている。また、内部研修としてミーティング時に研修時間を設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野圏域グループホーム会に参加しており、同業者との交流の場所を増やしネットワークづくりや勉強会の機会を設けている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、家族、行政としっかりコミュニケーションをとり、情報交換し安心していただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問時やグループホーム見学時などに、しっかりアセスメントを取り、不安、要望など受け止め安心していただけるよう関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	行政や在宅ケアマネと情報交換を密に行い、必要なサービスを検討し、本人や家族が納得できるよう対処している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意なことを把握しておき、教えてもらったり手伝ってもらったりして、互いの関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りを毎月発行し、日々の楽しい生活、笑顔を見ていただいている。また、面会時にはお茶など一緒に楽しんでいただいている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の人や友人が来やすいようにしたり、お茶などを一緒に楽しんでいただいている。	利用者の重度化や、知人や友人が遠方にあることもあり、訪れる方は少ない。地域の敬老祭に行ったり、家族の付き添いを得て、墓参りをする方も居る。手紙は自分で書ける方も居るが、希望により代筆の支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の席を中の良い人同士にしたり、孤立しがちな入居者には職員がフォローし寂しくないように支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	常に行政、外部事業所などと連絡を取り合い、相談・支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からしっかりアセスメントしており、希望、意向の把握に努めている。また、日々の会話のなかからも把握に努めている。	利用者の基本情報が十分に整備されているので、利用者の思いや願い、得意分野(おぶっこ作り、縫物)などは把握できている。日々の会話から得たものを含めて、理念に副った「安心して暮らせる場所作り」に取り組んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをしっかり取ることにより、生活歴や馴染みの暮らし方、環境などこれまでの経過など把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を見ながら、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と充分話し合い、よりご本人の想いに即した生活を送れるよう作成している。また、随時見直しをかけた現状に即したものにしている。	課題分析から評価まで様式・記録を含めてよく整備されている。介護計画については毎月、実施状況の把握・評価を行い、現状に即した計画となるよう対応している。計画作成担当者と利用者の担当が中心となって計画を作成している。施設サービス計画書(2)の援助内容の担当者・頻度・期間のあり方について、さらなる工夫を施そうと検討している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング表にケアの実践、結果、心身の状態の変化等を記入して、見直しが必要時に活かしている。個別に日常の状況(バイタル・排便・入浴等)を具体的に記録している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じ対応困難な時は、受診や市役所等への支援を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営会議を通し近隣の情報を入手し、地域の人と交流を図れるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどが主治医でもある中条診療所の医師に任せており、月4回の往診がある。緊急時には主治医と連絡を取り、近隣の病院にもすぐ行ける体制をとっている。	利用者・家族の希望によりほとんどの方が事業所の協力医がかかりつけ医となっており、1人月1回の往診を受けている。歯科も近くにあり、緊急時や入院には事業所の協力医療機関を利用でき、併設事業所の看護師とは24時間の連携が可能であるので、医療面での安心を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>老健の看護師と24時間連絡が取れている。また、往診時や電話などで主治医・看護師に相談でき、適切に受診できるよう努めている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医療機関と常に情報交換を行い、早期退院できるよう努めている。また、関係づくりも良好である。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合の方針を個々の家族と話し合い、同意を頂いている。また、状況が変化した時には、再度家族、医師と話し合いより良い方向を話し合う体制を整えている。</p>	<p>重度化や終末期の対応は、医療面での協力を得ることが出来る体制となっているので、家族等の希望に副った対応が出来て家族等からの同意も得ている。家族の気持ちとしては、いざ終末期となると揺れ動くもので、精神的なケアの必要性が多くなるが、都度話し合いも充分行われている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>ミーティング時に研修をもうけたり、看護師とともに定期的に訓練をしている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>老健合同の避難訓練を定期的に行い、避難経路図を各ユニットに掲示している。運営会議にて、地域の人々の協力が得られるよう話し合いをしている。</p>	<p>昼・夜想定で併設事業所と合同で通報・避難誘導・消火訓練を年2回行っている。22年度に地域防災協定を結び、地域や消防団の協力を得る体制が整った。避難経路図・スプリンクラーの設置・自動通報装置などの防災設備は整い、併設事業所との相互協力・防災警備会社との契約もあり災害への備えは出来ている。</p>	<p>自動通報装置やスプリンクラー等の設備の理解(使用方法・設備の機能など)が不十分である面が見受けられるので、消防署などの協力を得て、通報・避難誘導・消火に関する学習会などの機会を設けることを期待したい。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりにあった声かけや対応を行っている。ミーティング時に守秘義務の徹底を図っている。	職員の行動規範である「4つの約束」に利用者への尊厳保持やプライバシーへの配慮が明示され、日々の介護の中で実践するよう取り組んでいる。個人の書類は鍵の掛かる保管庫に収納され、守秘義務の徹底のため職員から誓約書を取っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に個々に対応しており、訴えにはなるべく添えるよう話を聞いている。飲み物などは自己決定していただいている。生活においても個々に自由に過ごしていただいている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状況を見守りながら、その人に合わせた声かけや対応を行っている。その人らしく生活できるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備時、本人と一緒に好みの衣類を選んでいる。また、希望時出張美容室にでかけ、身だしなみを整えている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものなどの希望を聞き、対応している。旬の取れたての野菜を使った季節感のある食事を取り入れている。また、下準備など一緒にできるものは手伝っていただいている。	調理は利用者の出来る範囲で下準備などを中心に職員と一緒にいき、食事は会話を楽しみながら職員とテーブルを共にして、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。地元産の食材、畑で採れた物、季節感のある物を中心に併設事業所の献立をアレンジして職員が作成し、これまでと同じように家庭で味わえる食事作りを心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>老健の管理栄養士の作成した献立を参考にして調理しており、栄養バランスも考慮している。一人ひとりの状態にあった分量や嚥下状態にあったものなど注意をはらって対応している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、その人に応じた口腔ケアを行っている。治療など必要ある場合、すぐ対応できる体制をとっている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握して行っている。排泄の失敗があっても、試行錯誤しながら声かけや誘導により自立支援につなげている。</p>	<p>トイレを使用しての排泄を介護の基本とし、排泄に関しての職員の意識の共有化が出来ている。尿取りパット・リハビリパンツ・夜間のポータブルトイレなどを活用して、排泄パターンに沿ったトイレ誘導や声掛けを行い、排泄の自立に向けた取り組みをしている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>予防のため、繊維質の野菜を多くとり、水分摂取も促している。また、皆で身体を動かすよう体操をしている。個々に排便チェックしておりコントロールしている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴担当者がひとりひとりの入浴スタイルに合わせてゆっくり行い、楽しめるように支援している。日替わりで薬草風呂を楽しんでいただいている。</p>	<p>入浴は1日に全員、午前中、1人週3回行っている。脱衣場はゆったりとしたスペースとなっており、浴槽が2つあるので自立者・介助者の同時利用による効率化が可能であり、明るく、清潔感があった。重度化している方については、現在は事業所の浴室利用で対応しているが併設事業所での入浴も視野に入れている。清潔感の維持と入浴の楽しみを得られるよう努めている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できる環境の提供と、昼夜逆転傾向の入所者に対して、生活リズムを皆で把握し、改善できるよう対応している。また、医師にも相談等している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬包に記名し、朝・昼・夕専用の箱に入れ、入所者確認しながら誤薬にはらっている。薬の詳細はファイルしており、目的・副作用などは理解している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おぶっこつくりや縫い物、貼り絵など一人ひとりにあった生活活動を行い、楽しみや気分転換を図っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日光浴や外気浴を兼ね玄関先でお茶を楽しんだりしている。また、個々に散歩などしている。お花見、七夕、紅葉狩り等外出計画を支援している。	重度化もあり、利用者からの要望も少なく、事業所周辺の散歩外出の機会は多くない。気分転換や五感の刺激となる玄関先での外気浴は行っている。花見・紅葉狩りなどの外食を含めた計画的な外出は行っている。	日常的な散歩や散策は人員配置からネックもあるので、関係機関の協力を得てボランティアを取り入れて戸外に出る機会を多く持つことを期待したい。ボランティア活動の受け入れは、地域との繋がりを良好にしたり、事業所理解に繋がるきっかけともなるので積極的な働きかけが望まれる。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解の下に金銭をお持ちの方がおり、使い道等支援している。また、紛失等トラブルにならないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は常時かけられるようになっており、相手を呼び出すまで支援している。手紙も希望時代筆等援助している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアーにオープンキッチン、食堂、ホールがあり、食事の準備の音や匂いを感じられ生活感がある。トイレ、浴槽は広く、往来がスムーズにできる。天窓を利用し、爽やかな空気を取り入れ心地良く過ごせるようにしている。	テレビやソファのある寛ぎの空間となっているホールを取り囲むように居室があり、食堂・台所など何処に居ても全体が見渡せる形になり、安全面での配慮が窺えた。3か所の天窓からの採光も良く、エアコンによる冷暖房対応、年間の清掃計画や日々の清掃による清潔感の保持と居心地よく過ごせる空間作りに努めている。事業所全体の整理整頓や飾り物等の季節感への配慮が必要と思われた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーの中央には、大型TV、ソファがあり、自然と集まり談話できるようになっており、思い思いに過ごしていただいている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族の思いを大切にしている。畳を敷いたり、タンス、TV等持ってきてもらい、本人らしく居心地良く過ごせるよう配慮している。	利用者と家族で思い思いの部屋作りをしてあり、テレビ、タンス、絵画、写真などが配置されていた。採光も良く、明るく、シーツ交換は週1回行い、居室の清掃も行き届き、清潔感があり居心地よく過ごせる空間になっていた。括りつけの収納スペースがあり、居室内はよく整理され、すっきりとしたベッド周りとなっていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を把握しており、声かけや見守りを多くして自立支援している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう地域と交流を密にしたいが、現状は気軽に交流するにいたっていない。	地域の方が気軽に立ち寄れる場としたい。	まず、地域の子供たちが安心してこれる場所として育成会や親にはたらきかけている。(学校では、送迎等の関係で難しい) 現在、クリスマス会などに子供たちの参加を得ている。	1年
2	35	自動通報装置やスプリングクラー等の設備は整っているが、職員の理解が不十分であり、通報訓練などを含めた研修会をする必要がある。	職員全員が通報装置の使用方法や設備機能を理解し、いざという時にあわてず、通報・避難誘導できるようにする。	消防署などの協力を得て、通報装置を实际使用した訓練を職員全員が行い理解を深める。	6ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。